

29年10月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成29年 10月1日～ 29年10月10日

2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
10月分の回答企業数は10社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/10月	11月	12月
入荷動向	スギ・ヒノキ	△ 6.3	0.0	△ 6.3
	マツ	△ 27.8	△ 22.2	△ 22.2
	広葉樹	△ 40.0	△ 35.0	△ 30.0
消費動向	スギ・ヒノキ	14.3	△ 7.1	21.4
	マツ	△ 31.3	△ 18.8	△ 18.8
	広葉樹	△ 44.4	△ 33.3	△ 11.1
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 25.0	△ 6.3	△ 6.3
	マツ	△ 37.5	△ 37.5	△ 25.0
	広葉樹	△ 35.0	△ 20.0	△ 40.0

チップ用国産原木の入荷動向はスギ・ヒノキは10月の減少から11月は横ばい、12月は再び減少に。マツ類、広葉樹とも3カ月連続減少。

・スギ・ヒノキの消費動向は10月の増加から11月は減少、12月は再び増加に。マツ類、広葉樹とも3カ月連続減少。

・スギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹の在庫動向

(2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	29/10月	11月	12月
スギ・ヒノキ	12.5	6.3	6.3
マツ類	11.1	5.6	5.6
広葉樹	0.0	10.0	11.1

・チップ用国産原木の購入価格動向は、スギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも保合い。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・国有林のシステム材入荷により、スギ・ヒノキ、マツ類は横ばい。広葉樹は天候の悪化、森林再生事業へのシフト、季節的要因も重なり激減傾向。在庫はスギ5.0→4.5か月、マツ類2.5→2.5か月、広葉樹1.0→0.5か月（東北）。

・針葉樹の伐採が少ないことやバイオマス発電用に流れていることから、針葉樹材の入荷が非常に少ない。在庫は広葉樹原木が増加傾向にあり、針葉樹原木はほとんどない状態（関東）。

・国有林からの入荷がなくなり仕入は減少していく。消費は、製紙会社の受入れが上向いてきており増加傾向にある。在庫は、仕入が減少し出荷が上向くことにより減少する（関東）。

・購入材の割合が大きいいため荷動きの動向を見通すことが難しいが横ばいとする。仕入・消費・在庫とも変動なし（中国）。

・梅雨から夏場に掛けて害虫の影響により出材量減少にて原木不足になったが、価格上昇も考えられるため出材量は増えると思われる。消費・在庫とも仕入同様にスギ・ヒノキがやや増加する見通し（四国）。

・全樹種とも比較的順調な入荷となり、しばらく仕入は横ばいで推移するものと思われる。10月は製紙向け針葉樹の増産依頼が来たので、その分広葉樹を減らす。11月は製紙ライン、木質バイオマス発電所ともに年次点検の月となるため全樹種で減産となる。以上の理由により、原木在庫は計画通り増減する（九州）。

・10月は取引事業者の広葉樹原木の確保が少なく、仕入・消費・在庫とも減少の見通し。スギ・ヒノキ、マツの原木は基本的に仕入れていない（九州）。

(原木価格)

・スギ・ヒノキ、マツ類は高値安定。広葉樹は原料の減少により今後値上り予想（東北）。

・広葉樹原木は9月から若干値下げして購入している（関東）。

・価格は変化なし（関東）。

・原木価格は変動なし（中国）。

・原木価格変動なし（四国）。

・価格改定の予定はない（九州）。

・広葉樹原木価格は横ばいで推移（九州）

29年10月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/10月	11月	12月
生産動向	スギ・ヒノキ	28.6	△ 7.1	21.4
	マツ類	△ 18.8	△ 31.3	△ 12.5
	広葉樹	△ 44.4	△ 33.3	△ 11.1
出荷動向	スギ・ヒノキ	31.3	0.0	16.7
	マツ類	△ 10.0	△ 20.0	△ 10.0
	広葉樹	△ 55.0	△ 35.0	△ 15.0
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 7.1	0.0	0.0
	マツ類	△ 25.0	△ 25.0	△ 18.8
	広葉樹	△ 22.2	△ 22.2	△ 22.2

・スギ・ヒノキの生産動向は10月の増加から11月は減少、12月は再び増加に。マツ類、広葉樹は3カ月連続減少。

・スギ・ヒノキの出荷動向は10月の増加から11月は横ばい、12月は再び増加に。マツ類、広葉樹は3カ月連続横ばい推移。

・スギ・ヒノキの在庫動向は10月の減少から11月、12月は横ばいに。マツ類及び広葉樹は3カ月連続減少。

(2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し)W

品目	29/10月	11月	12月
スギ・ヒノキ類	0.0	0.0	0.0
マツ類	△ 7.1	0.0	0.0
広葉樹	△ 6.3	0.0	0.0

・木材チップの出荷価格動向はスギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも横ばい推移。

モニターからのコメント

(木材チップ荷動き)

- ・スギ・ヒノキ、マツ類の出荷は、広葉樹の減少に伴いやや増加。広葉樹は原料の減少により出荷量も減少（東北）。
- ・広葉樹チップの生産は半減である。針葉樹チップを生産したいが材の確保が難しい状況にある。広葉樹チップの出荷は製紙会社によっては50%減である（関東）。
- ・在庫は持っており、出荷に合わせた生産となる。製紙会社の受入れが上昇傾向にあり、今後も安定するものと思われる（関東）。
- ・生産・消費・在庫とも変動なし（中国）。
- ・製紙、ボード類、燃料用とも制限がないため、スギ・ヒノキの生産・消費ともやや増加見通し。在庫は横ばい（四国）。
- ・針葉樹製紙用を増産した分広葉樹を減らす。11月は製紙用、発電用とも大きく減産。なお、チップの在庫は持っていない（九州）。
- ・10月は広葉樹原木不足のため生産・消費とも減少見通し（九州）。

(木材チップ価格)

- ・値下げされた状況がしばらく続きそうである（関東）。
- ・チップ価格に変化なし（関東）。
- ・チップ価格変動なし（中国）。
- ・チップ価格変動なし（四国）。
- ・針葉樹発電用の乾燥状態の良いチップについては僅かに価格見直しがある。しかし、別土場での丸太乾燥の手間代を価格に転嫁できないでいる（九州）。
- ・広葉樹チップ価格は横ばいで推移（九州）。